



笠原会長(左)と事務局の佐東さん(右)

### 太鼓を通じて地域の方と交流 ～アットホームな雰囲気も素敵！ 太鼓の音色を郷土芸能の一つとして伝えていきたい～

#### 清瀬上和太鼓保存会

会長 笠原修さん・事務局 佐東明美さん

昭和40年代から活動を始めた清瀬上和太鼓保存会。会員は2歳の子どもから70代のベテランまで70人程で、年1回、活動の成果を「鼓動の響」というタイトルで発表しています。今号では、前向きな姿勢を常に持ち続け、会員同士では家族ぐるみの付き合いを行っている、清瀬上和太鼓保存会会長の笠原さんと、事務局の佐東さんにお話を伺いました。



1月12日に行われた成人式で、力強い演奏を行う会員の皆さん

### 3本の木ととも

「新たな万能細胞『STAP細胞』開発の成果が1月30日付の英科学誌『nature』に発表され、海外の研究者からは『革命的だ』『また日本人科学者が成果』と称賛する声が上がった。」とのニュースに日本中が元気になったと思います。開発のリーダーは若千30歳の、かっぱを着姿で実験するムーミンが大好きな小保方晴子さんです。女子力、とんでもなく凄いですね。未来が一気に明るくなりました。

さて、清瀬市の明るい未来に向けて、平成26年度予算案の編成作業が終わり、3月の市議会に提案し、ご審議いただくことになり、予算案に盛り込んだ事業をいくつか申し上げます。

平成26年度は、消費税の増税がありますので、市民の皆さんが安心して暮らせるよう各施策に積極的に取り組む、一般会計の予算総額は27億8千500万円、対前年度比で15億1千500万円、58%の増となりました。

まず、子育て支援では、保育園待機児童ゼロを目指して、市立第1保育園に0歳児クラスを新設する他、私立せせらぎ保育園(中里一丁目)、どろんこ保育園(松山三丁目)の開設を支援し、認可保育園の定員を14人増やします。また、私立幼稚園の園児保護者負担軽減の拡充を図る他、中・高生の居場所づくりとして下宿児童館を再整備します。

健康づくりでは、「歩く」ことが健康の第一歩ですので、「美しくウォーキング」として、ウォーキング教室やイベントを開催します。

清瀬市長

渋谷金太郎

笠原さんは太鼓歴32年。佐東さんと佐藤正敏前会長が開いていた、上和太鼓保存会(以下、保存会という)に小学5年生の時に入会しました。きっかけは三小の盆踊り。会員が数人だったので若い人たちが育てたいということで、佐藤前会長が募集をかけたところ、笠原さんが応募し、そのまま太鼓の面白さにはまったそうです。笠原さんは長年副会長を務めていましたが、3年前に佐藤前会長が、「若い人たちに任せよう」と、笠原さんに会長を引き継ぎました。

笠原さんは2人の息子さんに鼓(つづみ)・響(びびき)と名付けるほどの太鼓好き。その息子さんたちも入会し、一緒に太鼓を叩いているそうです。笠原さんの言葉聞き、隣で笑顔でうなずく佐東さん。お二人からは保存会の仲の良い雰囲気も伝わってきます。

代表的な活動は、きよせ市民まつり、南口のふれあいどりや北口睦会での祭りの他、成人式や3小の50周年記念事業、所沢、大崎、明治神宮など、市外でも活動している、自分たちでリズムを考えたオリジナルの創作組太鼓を演奏しています。

メンバーが妊娠すると、妊娠中から太鼓の音を聞かせながら、皆で赤ちゃんを育てているという保存会。赤ちゃんは大きな音のなかでも大丈夫なのでしょうか。お二人は、「太鼓の音がすると赤ちゃんが振り向いたり、自分も叩きたいのか、手が反応したりする」「太鼓の音色のなかで、赤ちゃんは安

#### 叩く音が響き、心が揺れる

「太鼓を叩く時は、皆で輪になり笑顔になるので、疲れも吹き飛ば」と話すお二人からは、元気の良さや力強いエネルギーが感じられました。こうした良い音が出るかを伺うと、「音に正解はない。太鼓と体が一体になると、自然に緊張が抜けて手首のスナップが利くようになり、自分が出したい音が出るようになる」と教えてくれ



「第37回鼓動の響」に出場した会員の皆さん(写真は平成20年)



毎年明治神宮で行っている「建国を祝う会」にて(写真は平成20年)

心したようにやすやすと寝ている」と教えてくれました。

「車椅子の方を輪に入れて、一緒に演奏しているうちに、しょんぼりとしていたように見えた方がだんだんと笑顔が出てきて。うまく音が出せない方でも心が笑顔になるんですね」とうれしそうなお二人。「手が思うように動かせない方なども太鼓を叩いて音を出せると、感動して涙を流す程喜んでくれて、そんな瞬間にやりがいを感じ、やって良かった」と思うそうです。

#### 太鼓を通じて笑顔が生まれる

最近、高齢者や障害者の方のりハビリに太鼓が活用されていると話を聞きます。保存会でも「毎年夏に、清雅苑でボランティア活動をしている」とのこと。太鼓を叩くと利用者の方々が喜ばれるそうです。

「車椅子の方を輪に入れて、一緒に演奏しているうちに、しょんぼりとしていたように見えた方がだんだんと笑顔が出てきて。うまく音が出せない方でも心が笑顔になるんですね」とうれしそうなお二人。「手が思うように動かせない方なども太鼓を叩いて音を出せると、感動して涙を流す程喜んでくれて、そんな瞬間にやりがいを感じ、やって良かった」と思うそうです。

他にはどんな時にやりがいを感じるのでしょうか。何うと「演奏を聴いて喜んでもらった時」とのこと。幼稚園での催し物で、演奏を行うと、感激して入りたいという園児がたくさんいて、心が温まるそうです。また、「皆が一つになり、音がそろった時」や、「うまくいったとお互いに思えた時」に心地よい達成感を感じるそうです。

#### 子どもたちは宝物

保存会では、子どもたちを宝物として育てています。「太鼓以外に日常からコミュニケーションを取ることで、心を開いて向き合える一瞬も大切」と話すお二人は、青少年の健全育成に力を入れていく様子が伝わります。

今後の目標は、設立当初から貫いている、「地域との交流を深めながら子どもたちの健全育成を行うこと」と、「太鼓の音色を郷土芸能の一つとして残していくこと」だそうです。「自分たちができなかったことを若い世代に継承していきたいと思っています。太鼓をやっていると良かったと、子どもたちが思ってくれば一番うれしい」と話されました。

音や振動のことを考慮すること、市内に練習場所が少ないことが悩みです。現在は主に所沢で練習していますが、市内で活動できる場所が増え、市民の方とより交流する機会が増えればうれしいです。太鼓で皆が元気になるれば、私たちが張り合いが出てきます。ぜひ演奏会を見に来てください。

#### 市民の方へ